第四講　日本文化論・弁証法

次の文章を読んで、後の問題に答えよ。

日本人はむかしから世界に対して美的態度をとる傾向がつよかった。ただしこの美的というのは、かならずしも芸術的ということではなく、ましてつねに価値の高い芸術作品をつくったということではなく、むしろ情緒的な感動や快感をもって最高の境地とし、これを最後の解決とするというほどの意味である。このような美的態度―情ということは、日本文化にいちじるしい。他のすべての民族は、その文化のはじめに世界への恐怖をもっていてそれへの防禦を表現したが、日本ではこれはずっと初期の縄文式土器にいくぶんかあとをみせただけで、まもなく消えてしまった。世界と人間との対立はなくなり、いまわれわれが遺品によってみるのは、自然児の素朴で無邪気な渾融諧和、遊戯衝動である。弥生式土器、埴輪、［A］の神話である。日本人は、世界のおそろしさに対する原体験をぬきにして出発したらしい。世界人生と対決して、そこに二元性のきびしい矛盾に苦しんだあとはすくない。事実の重圧に直面して、意力、知力をもってそれと格闘しようとはしなかった。むしろすべてを、［B］に流した。素朴で明るいと考えられている［C］には意外に死の歌が多く、言葉はすでに巧緻をきわめているが、これも悲劇ではなく、詠嘆である。むかしから日本人は嘆くことが大好きであり、情的感動への要求がつよくて、相手の正体を見きわめようとする［D］への要求はすくない。もちろんすべてがこれのみではなかった。さかんな知的探究も行われ、鎌倉戦国の武将はつよい意力の持主であり、徳川時代の武士道文化はほとんど古ローマ的スパルタ的な克己禁欲を重んじ、感性をいやしめひたすら［E］を表にたてて、鍛練をした。明治時代はこの遺産によって形成された。しかし、全体としてみると、そこにはつねに情のヴェールがかかっている。

親鸞は「南都北嶺にはゆゆしき学僧たちがいる。理論をききたければそちらに行ってくれ。自分はただ信心に生きる」とて、ふかい信仰の道をひらいた。葉隠れ武士は「忠とか不忠とか、義とか不義とか、考えるのがいやである。ただ一途に主君のために死ぬ」とて、忠誠、名誉、廉恥に精進した。キリスト教国では自殺ということは汚辱の敗北ということになっているが、日本では心中は純情のあらわれとして美化され讃美された。うつくしく滅びゆく者は、つねに同情をあつめた。こちたき言挙げを

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

きらい、きびしい認識をむしろおとしめて、ひたすら情に殉じた。

この性格は現代でも変らない。世界人生は緻密に［F］に認識せらるべきであるというセンスが乏しく、自分の判断にはまだ検討の余地があるのではないかと疑うことがすくないから、ともすると感情的独断でわりきる。感情の要求に答えないものは、事実のいかんにかかわらず論理のいかんにかかわらず、否である。都合のわるいことは事実でもうけつけない。むしろ狭い感情的独断にしたがって、事実と論理をつくりあげる。これは人間に［G］な傾向ではあるものの、事実の認識と論理づけがいかに［H］な要求によって左右されるものであるかは、おどろくほかはない。一方の極に［I］ヒューマニズムがあり、他方の極に［J］アナーキズムがあり、そのあいだのもやもやしたコンプレックスがある。こうしたものが一切を速断する。しかし、それはもともと認識に出発したものではないから、時が変れば頭を切りかえて、認識としては浅いところで、そのときそのときに懸命になる。

ドイツではすべて［K］だが、日本にはディアレクチクはない。自分がひとり異をたてるということは、その理由や内容のいかんにかかわらず、そのこと自体が全体の調和をみだすものとして、なすべからざることであり、美的趣味をそこねることなのである。つねに型にはまった画一的な考え方が風靡（ふうび）するのは、一つにはこういう心的傾向からきているのであろう。

言論による多数決のはずのデモクラシーが、ともすると自分の集団の中では自然の一致なれあい、外にむかっては勝つか負けるかの悲壮な決意完遂（かんすい）になるのも、やはりそれであろう。

そのほか、こういう例はかぎりがない。

（竹山道雄（たけやまみちお）「文化の形態と接触」による）

問1　空欄［A］・［C］にはそれぞれ、上代の作品の書名が入る。その書名を漢字で記せ。

問2　空欄［B］・［D］・［E］を埋めるのにもっとも適切な言葉を、次のそれぞれの中から選んで記せ。

B　①　美　②　喪　③　情　④　水　⑤　歌

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

D　①　対立　②　事実　③　対決　④　認識　⑤　格闘

E　①　武勇　②　意志　③　質朴　④　忠義　⑤　道徳

問３　空欄 F ～ K のそれぞれを埋めるのにもっとも適切な言葉を、次の中から選んで記せ。

①　弁証法的　②　感傷的　③　普遍的　④　主観的　⑤　破壊的　⑥　多角的　⑦　積極的

問４　次の文章のうち、本文の筆者の主張に合致するものには○を、合致しないものには×を記せ。（誤答は正答の得点から減点する。）

①　日本文化に見られる美意識は、縄文文化と弥生文化にそれぞれ由来する伝統の渾融諧和によって育まれたものだ。

②　他の文化ではあたりまえの事実の認識に基づく論理づけが、わが国ではこちたき言挙げとされいやしめられる傾向が著しい。

③　日本人の美的感覚には論理が欠けているために、わが国には世界に通用する価値を持つ芸術作品がなかなか生まれない。

④　徳川時代に賞揚された武士道のモラルは、日本的美意識の伝統から逸脱したものだ。

⑤　日本文化の本質をなすと言える美の感覚は、弥生時代から現代まで根本的にはあまり変化していない。

⑥　わが国でデモクラシーが正常に機能せぬことも、日本文化に固有の美意識とけっして無関係ではない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　竹山道雄＝たけやま　みちお（一九〇三～一九八四）東京大学文学部独文学科卒。文学者。小説『ビルマの竪琴』の作者でもある

●親鸞＝しんらん　鎌倉時代の僧侶で浄土真宗の開祖

○『古事記』→神話的歴史書。『日本書紀』も内容の重複があるが、こちらは大和朝廷の「正史」

○『万葉集』→まず、技巧が未発達で素朴・実直な歌が多いこと、加えて貴族のみならず、東人の歌や防人の歌を含むため、「ますらおぶり（男っぽい）」と評される。他方、平安時代の『古今和歌集』は貴族と僧侶の歌が主であることから「たおやめぶり（女性っぽい）」と評される

語句

防禦＝ぼうぎょ→「防御」と同じ。攻撃から身を守ること

巧緻＝こうち→細かいところまでいきとどいて精巧であること

克己＝こっき→自分の欲望に打ち勝つこと。「克己心」という表現もあり

鍛錬・鍛練＝たんれん→心身をきたえて、技を磨くこと・金属を打ってきたえること

廉恥＝れんち→心が清く、恥を知る心をもつこと。これがなくなると「破廉恥」

精進＝しょうじん→努力すること。修行に打ち込むこと

汚辱＝おじょく→恥ずべきこと。恥辱

言挙げ＝ことあげ→言葉に出してあれこれ言い立てること

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

こちたし→古語の形容詞で、うるさい、わずらわしい、しつこいの意味
ヒューマニズム→様々な縛りから人間を解放しようとする思想。または人間愛を大事にする人道主義
アナーキズム→無政府主義。本来は、最大の暴力機構である政府をなくすことによって、平安暮らしを実現しようとする思想だが、一般には、無秩序と混乱、破れかぶれな態度を意味する。今回の文章でも後者の意味
コンプレックス→一般には劣等感を意味するが、複合的な感情で、本来は優越感も含む
ディアレクチク・ディアレクティーク→弁証法。対話や議論を通じて意見を高める思考方法
モラル→道徳や倫理
風靡＝ふうび→風が草木をなびかせるように、大勢の人を従わせること

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）大衆の情チョに訴える　①著　②貯　③緒　④猪　⑤躇

（イ）会議にて検トウを重ねる　①討　②踏　③問　④闘　⑤刀

（ウ）カク一的な発想を超える　①各　②角　③核　④画　⑤確

（エ）議論のヨ地が残っている　①予　②預　③代　④誉　⑤余

（オ）決意を最後まで完スイする　①粋　②酔　③睡　④推　⑤遂

（カ）技術はコウ緻を極めている　①硬　②効　③侯　④巧　⑤考

（キ）主君に心から忠セイを誓う　①誠　②姓　③聖　④誓　⑤精

（ク）仕事や勉学にショウ進する　①性　②章　③精　④焦　⑤省

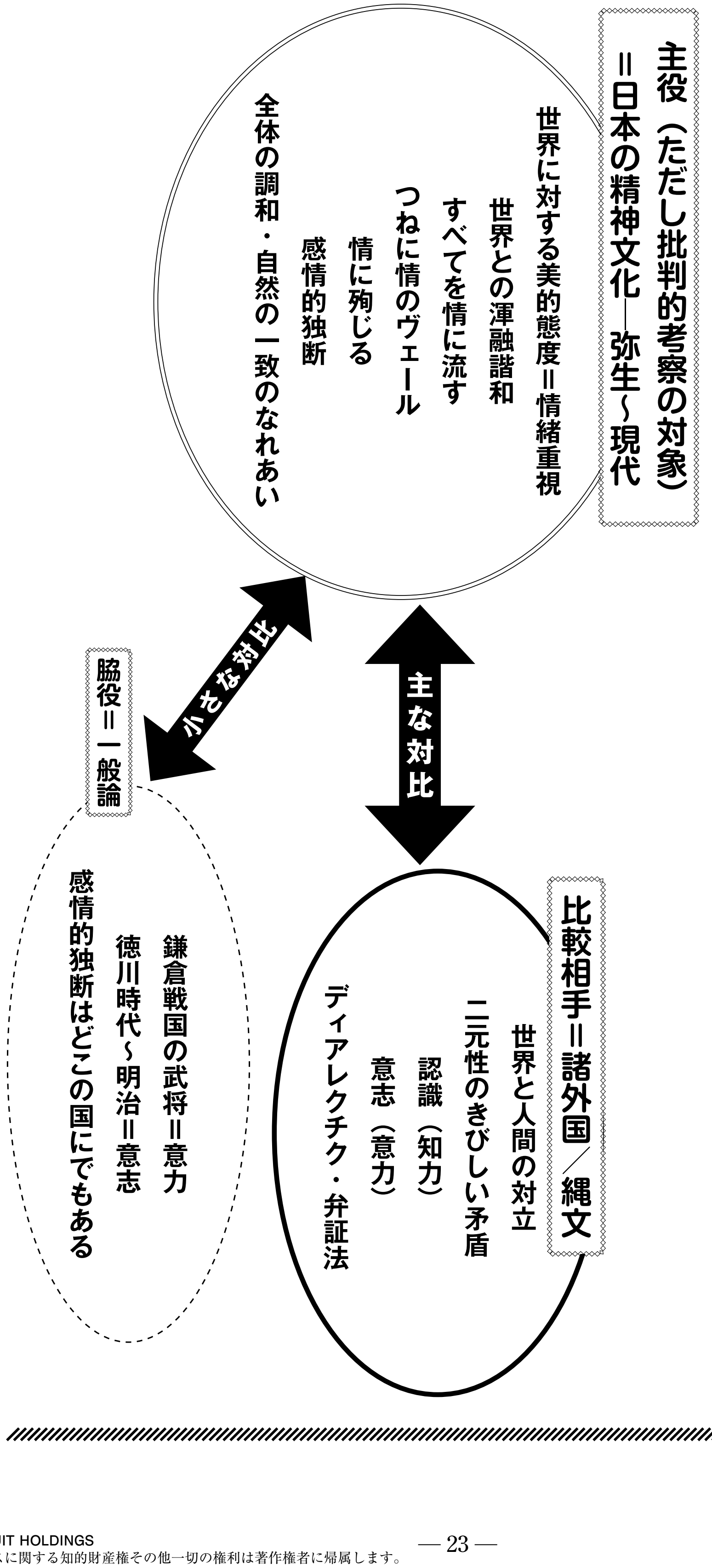
（ケ）武士の名誉や廉チを重んじる　①智　②知　③恥　④治　⑤痴

（コ）仕事をシュ味として生きる　①守　②主　③趣　④手　⑤珠

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

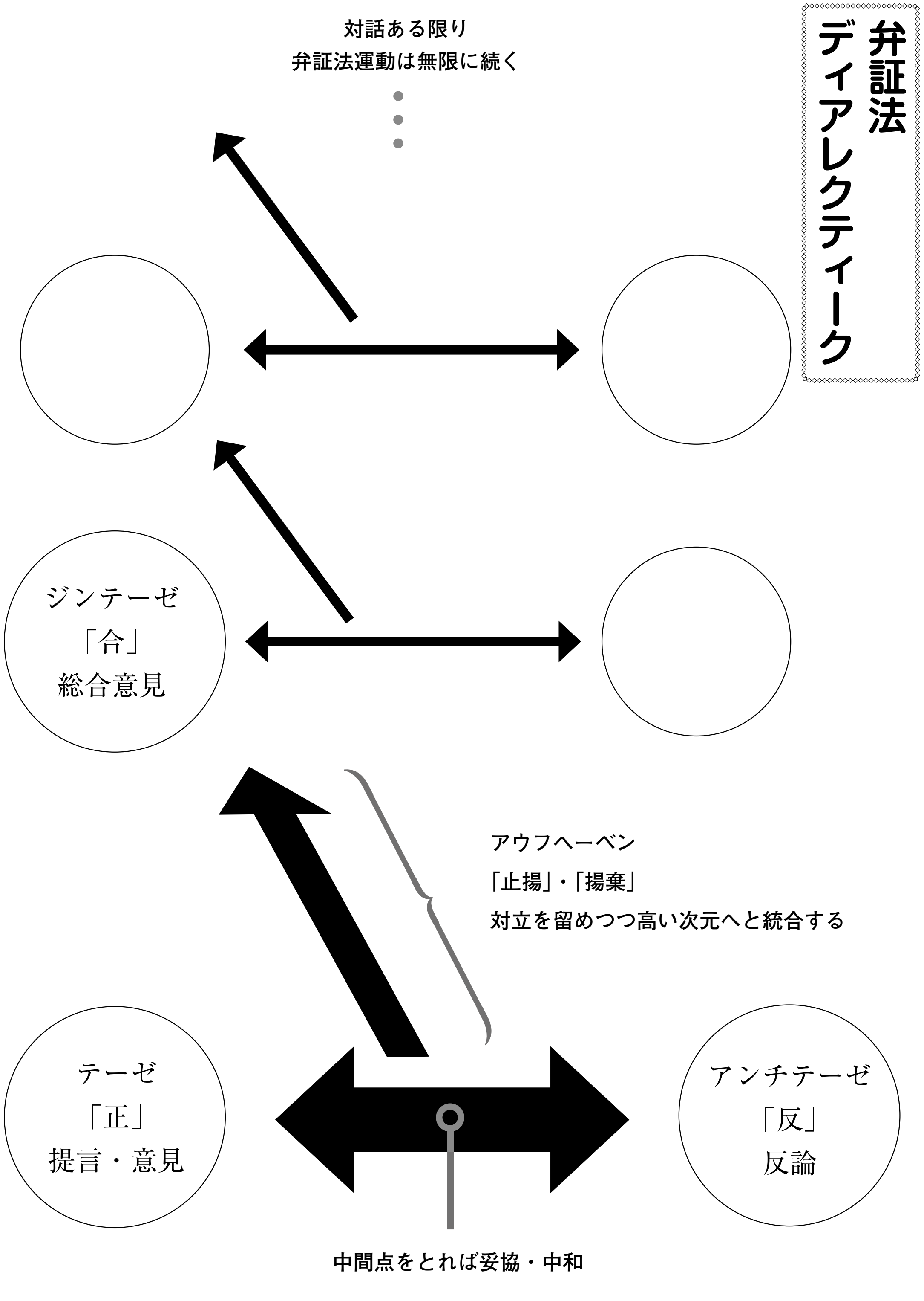
第四講　日本文化論・弁証法

《本文の対比構造》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

弁証法
ディアレクティーク



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《空欄補充・文学史》

設問文にある「上代（じょうだい）」とは、大昔の意味ですが、文学史の時代区分では、八世紀、奈良時代のことです。[A]は「神話」というヒントが本文にありますから、『古事記』が答えです。ほぼ同時期の『日本書紀』も神話的歴史書で内容的にもかぶる点が多く、〝記紀神話〟とひとまとめにする表現もありますが、『日本書紀』は大和朝廷のオフィシャル・ヒストリー（正史）です。やはり「神話」で一作品を挙げるなら『古事記』です。[C]は「歌」がヒントで『万葉集』です。

問２《空欄補充・選択肢》

B　日本のキーワード「情」が入ります。③が答えです。第一段落に「情緒的な感動や快感をもって最高の境地とし、これを最後の解決とする」「美的態度―情ということは、日本文化にいちじるしい」とあることが根拠です。この他、[B]と同じ段落の最後の文「そこにはつねに情のヴェールがかかっている」、次段落の最後の文「ひたすら情に殉じた」も裏付けになります。①の「美」では不十分です。第一段落で「美的態度」と書いたあと、「ただし」書きを付けているでしょう。「情緒」「情」のことだよ、と。さて、〝水に流す〟という慣用表現は存在します。そのため④を選んだ人もいるかもしれません。しかし、これは〝過去のいざこざをなかったことにする〟という意味で文脈に合いません。②の「喪」では、文脈に合わない上に、慣用表現としてもヘンです。〝喪（も）に服す（死者を悼（いた）み、身を慎（つつし）むこと）〟とは言っても〝喪に流す〟とは言いません。⑤の「歌」も合いません。〝歌を流す（オンエアする）〟〝歌は流れるあなたの胸に〟とは言っても〝歌に流す〟とは言いません。

D　「相手の正体を見きわめようとする[D]への要求はすくない」とありますから、日本には足りないものが入ります。比較相手のキーワードです。この点では、①「対立」、②「事実」、③「対決」、④「認識」、⑤「格闘」はすべて候補になります。そこで「相手の正体を見きわめ」と合致するかどうかが正答か誤答かの分かれ目です。したがって、④「認識」が正答です。直前部分にある「意力」「知力」の「知力」のほうですね。さらに次段落の最後の文「きびしい認識をむしろおとし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

めて、ひたすら情に殉じた」も根拠になります。②の「事実」と考えた人もいるかもしれません。しかし、見たままの「事実」ではなく、「正体を見きわめ」ですから、「認識」のほうがやはり良いです。認識は、ものごとをしっかり、深く、その意味まで理解するという意味です。

E　「もちろん」から始まって「しかし」の手前の、この空欄を含む箇所は筆者の見解ではなく、〝一般論〟ですからご注意を。鎌倉戦国、徳川時代、明治にかけては、諸外国並みに「意力」があったという部分です。「意力」「知力」のうち、Dは「知力」の言い換えでしたが、こっちは「意力」の言い換えで、しかも「感性（感情）」の反対ですから、②「意志」が正解です。①の「武勇」は外国キーワードの仲間と言えそうですが、「意力」の言い換えとは言えません。③の「質朴」は正しい対比喪失の誤りです。〝質朴・質素・素朴⟷派手・華麗・華美〟は比べられていないからです。④の「忠義」は筆者が言うところの日本キーワードですから、対比混乱の誤りになります。⑤の「道徳」は正しい対比喪失の誤りです。〝道徳⟷不道徳〟は比較になってないからです。

問３《空欄補充・選択肢》

F　日本人の性格が、「F に認識」するセンスに乏しく「感情的独断でわりきる」という文脈です。〝知的な認識⟷感情〟、〝F⟷独断（一方向主義）〟という絵に描いたような対比です。したがって⑥の「多角的」が当てはまります。

G　「感情的独断」を筆者は日本人の「性格」として語っていますが、そういうのは、日本人だけじゃなくて人間なら誰にでもあてはまるはずだ、という一般論を紹介している箇所です（筆者の意見ではありません！）。したがって、〝日本人ならでは〟ではなく〝人間なら誰でも〟に該当する言葉が入ります。③の「普遍的」ですね。〝いつでもどこでも誰にでも〟の意味ですから。

H　「事実の認識と論理づけ」がストレートに重視されるのではなく、「H な要求によって左右される」は、筆者が言う日

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

本人の特性です。前段落にも「きびしい認識をむしろおとしめて」とあります。「感情の欲求」「感情的独断」の言い換えです。したがって、④の「主観的」です。人の気分、情緒を意味することばですからね。②の「感傷（涙ぐむ感じ）的」も「感情」ですが、いろいろある感情の一部ですので、ここには入りません。

「主観」について、ちょっと詳しく説明しますね。もの思いをし、物事を考える主体、人間の内面から来るものが「主観」です。英語ではサブジェクトです。モノ、物体を冷静に見る「客観＝オブジェクト」と対義語を成します。ものを考える、ものを思う人間側、いかにもメインっぽい言葉なのになぜ「サブジェクト subject」「サブ」なのでしょうか。この「サブ」は補佐や補助のような脇役っぽい意味ではなく、根幹・基幹・根底・ベースを意味するものです。物の本質・根源・実体をサブスタンス substance というときの「サブ」とおんなじです。潜水艦を意味するサブマリン submarine も補助軍艦ではなく、海面下に潜むから「サブ」です。下から軍事作戦を支えるわけです。

I・J　「一方の極に［I］ヒューマニズムがあり、他方の極に［J］アナーキズムがあり」とありますから、両者は対比的です。ただし知的な「認識」ではなく、両方とも感情レベルです。感情といっても〝喜怒哀楽〟という表現があるように、対比的かつ多様です。この場合、「ヒューマニズム」、例えば人間愛に満ちたドラマやドキュメンタリーに涙を流し、そうかと思ったら「アナーキズム」、やけっぱちで暴力沙汰という感じです。喜怒哀楽のうち〝哀⟷怒〟の対比です。したがって、Ｉに②の「感傷（お涙ちょうだいのセンチメンタル）的」、Ｊに⑤の「破壊的」が入ります。

K　「ドイツではすべて［K］だが、日本にはディアレクチクはない」とありますから、「ディアレクチク」の言い換えです。本文の別の箇所からのヒントを集めれば、「対立」「対決」「二元性のきびしい矛盾」「異を立てる」などです。①の「弁証法的」です。弁証法は、対立対話（ダイアローグはディアレクチクの語源にあたる）を通して意見を高めていく思考法のことです。

問４《全体の理解・正誤問題》

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

①の「日本文化に見られる美意識は、～伝統の渾融諧和によって育まれたものだ」という、頭としっぽの部分はＯＫです。しかし「縄文文化と弥生文化にそれぞれ由来する」は×です。筆者によれば「縄文」だけは例外です。弥生から現代までが「情緒」重視文化です。したがって、対比混乱の誤りです。しかも、×とできたら得点です。やったね。

②の「他の文化ではあたりまえの事実の認識に基づく論理づけが、わが国ではこちたき言挙げとされいやしめられる傾向が著しい」は正しい対比キーワードを押さえています。第三段落にも「こちたき言挙げをきらい、きびしい認識をむしろおとしめて」とあり、これを裏付けています。○です。

③の「日本人の美的感覚には論理が欠けている」は、ＯＫですが、その「ために、わが国には世界に通用する価値を持つ芸術作品がなかなか生まれない」は、×です。この文章の一番初めに「日本人はむかしから世界に対して美的態度をとる傾向がつよかった。ただしこの美的というのは、かならずしも芸術的ということではなく、ましてつねに価値の高い芸術作品をつくったということではなく」とありますからね。芸術作品については話題にしてないよということです。記述に反する誤りであり、対比混乱の誤りでもあります。

④の「徳川時代に賞揚された武士道のモラルは、日本的美意識の伝統から逸脱したものだ」を○にしてしまう人が多いのですが、×です。この徳川時代は例外だという話は、問２Ｅの解説でも記した通り「もちろん」から始まる〝一般論〟で、筆者の見解ではありません。筆者の見解はそのあとの「しかし」以降で、「全体としてみると、そこ（鎌倉戦国・徳川時代など）にはつねに情のヴェールがかかっている」なのです。これを×にできた受験生はホント立派です。現代文が読めている！　誤りの選択肢の仕組みを理解している！　もう免許皆伝です。

⑤の「日本文化の本質をなすと言える美の感覚は、弥生時代から現代まで根本的にはあまり変化していない」は堂々たる筆者の主張です。○です。ゆえに、あらためて①と④は間違いになるわけです。大学側も、この区別・対比が理解できたのかを問いたいのです。

⑥の「わが国でデモクラシーが正常に機能せぬことも、日本文化に固有の美意識とけっして無関係ではない」はＯＫです。終わりから二段落目に「言論による多数決のはずのデモクラシーが、ともすると自分の集団の中では自然の一致なれあい、外にむかっては勝つか負けるかの悲壮な決意完遂になるのも、やはりそれ（日本の感情的独断の傾向）であろう」とあるのが根拠です。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

問1　A＝古事記　C＝万葉集　問2　B＝③　D＝④　E＝②

問3　F＝⑥　G＝③　H＝④　I＝②　J＝⑤　K＝①　問4　①＝×　②＝○　③＝×　④＝×　⑤＝○　⑥＝○

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第四講

（ア）③　（イ）①　（ウ）④　（エ）⑤　（オ）⑤
（カ）④　（キ）①　（ク）③　（ケ）③　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）情緒　（イ）検討　（ウ）画一　（エ）余地　（オ）完遂
（カ）巧緻　（キ）忠誠　（ク）精進　（ケ）廉恥　（コ）趣味

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。